



生涯学習センターだより

2018. 8. 28(火)

8月号

(2018 年度第3号 : 通巻 20 号)

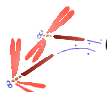
発行: 秋田県生涯学習センター

あきたスマートカレッジ レポート ～「地域の魅力発信」編～

今年度の移動学習の皮切りは、6月23日(土)に美郷町内で行ったあきたふるさと講座「地域の魅力発信～おらほの地域自慢～」でした。午前には松田知己町長の「美郷のまちづくりの来し方と今後～個性の醸成と発信～」と題した講演を拝聴し、合併から現在に至るまでの間、住民が誇りたい、誇れる美郷町づくりのために取り組まれてきた施策やその考えについて学びました。それを受けて、午後は湧水群、美郷町歴史民俗資料館、そして、まさに見頃のラベンダー園を見学しました。現地では地元ボランティアの方々が丁寧な説明をしてくださり、町長さんが話された「町民が誇りたい、誇れる町づくり」が具現化されていることを感じました。「町長さんの前を見据えたリーダーシップに感動した」「年齢を忘れて熱中できた学習だった」「現地見学は楽しく有意義だった」などの受講者の感想から、この移動学習が充実したものになったことを実感しました。この後は、横手市が会場になります。乞うご期待！



六郷湧水群「久米清水」にて



9、10月の講座開催予定

●行動人講座 (無料)

【実践コース：点字ボランティアになろう】

[19:00～20:30]

- 9月 5日(水) ○点訳を体験しよう
- 12日(水) ○点訳作業①
- 19日(水) ○点訳作業② [点訳指導]
- 26日(水) ○点訳作業③ 石山美幸氏
- 10月 3日(水) ○点訳作業④
- 20日(土) ○点訳した作品を届けよう

※10月20日のみ9:00～11:30の開催

●あきたふるさと講座 (有料)

【地域の魅力発信～おらほの地域自慢】※移動学習
[10:00～15:30]

- 9月 22日(土) ○よこて芸術・文化探訪
[講師] 秋田県立近代美術館職員
一般社団法人増田町観光協会
代表理事 千田孝八氏
横手市立増田中学校生徒
- 9月 29日(土) ○秋田県の救急医療とドクターヘリ
[講師] 秋田赤十字病院
救急救急センター長 藤田康雄氏
○全世代で雄和太鼓を轟かせよう！
[講師] 雄和太鼓保存会
※この日のみ9:20～16:00の開催
- 10月 27日(土) ○豊穰の郷・大潟村の今
[講師] 大潟村案内ボランティアの会

●官・民・学連携講座 (無料)

【あきたチャレンジゼミ】 [10:00～11:30]

- 9月 9日(日) ○秋田の発酵文化と長寿健康社会の実現
[講師] 秋田大学大学院
学長 教授 伊藤英晃氏
- 9月 27日(木) ○秋田の農業と自然にふれる
[講師] 秋田県農業試験場職員
岩城少年自然の家職員
※この日のみ10:00～15:30の開催
- 10月 19日(金) ○あきた伝統野菜のいま・これから
[講師] 秋田県立大学生物資源
科学部生物生産科学科
准教授 櫻井健二氏

会場：秋田県生涯学習センター ほか

(有料講座の受講料は1回420円です)

●あきたふるさと講座 (有料)

【あきた温故知新～風土・民俗・文化～】

[10:00～11:30]

- 9月 15日(土) ○「聖農を慕いて」石川理紀之助
[講師] NP0法人草木谷を守る会
代表 石川紀行氏
- 10月 13日(土) ○『秋田のことば』の編集に携わって
[講師] 県教育庁生涯学習課文化財保護室
学芸主事 石井啓之氏

【秋田の地域史】

[13:30～15:00]

- 9月 15日(土) 【東大史料編纂所】
出羽仙北地域の戦国史
[講師] 東京大学史料編纂所
准教授 金子拓氏
- 10月 6日(土) ○秋田地域の古代
[講師] 秋田市立秋田城跡歴史
資料館
事務長 伊藤武士氏

【県民読書おすすめ講座～女流作家作品を読む～】

[10:00～11:30]

- 9月 1日(土) ○山田順子「夢と現実(衷心の叫び)」雪しろと花紫の秋田
- 10月 6日(土) ○矢田津世子「弟」「春の湖」
[講師] 秋田県立大学総合科学
教育研究センター
教授 高橋秀晴氏

●特別企画 (無料)

【恋と芸術の女流文学～北条常久特別講座～】

[10:00～11:30]

- 10月 16日(火) ○瀬戸内寂聴「私小説」
～自分の人生を語る～

お知らせ

『生涯学習手帳』を無料配布しています。
この手帳は、ご自身の学びや活動について
記録し、生涯学習をより充実したものにする
ための有効なツールです。詳しくは受付へ！

今回は、生涯学習・社会教育関係者研修の中から、7月20日にセンターで実施した「公民館等職員専門研修①」と、8月2日に北秋田市前山を会場に実施した「地域活性化研修①」の様子を紹介します。

生涯学習・社会教育関係者研修 実施レポート②

○7月20日（金）「公民館等職員専門研修①」

公民館や市民センター等の職員を主な対象としたこの研修には、全県各地から42名が参加。昨年7月の本県豪雨災害から1年が経つことから、災害時に公民館等の施設が果たす役割について考えました。

【 午前の部 — ①実践紹介 ②グループ協議 】

昨年の豪雨で被害の大きかった大仙市から、西仙北中央公民館長の小山田幸哉氏をお迎えし、災害時の生々しい状況をお話していただきました。同館が所管する12施設のうち8施設が避難所となり、延べ960人の住民が避難してこれ、様々な対応が必要になったとのこと。避難所開設、運営、さらに水が引いた後のゴミ処理や洗浄といった復旧作業など、一人では難しいことを職員が一丸となって対応することで乗り切ったという、臨場感溢れる報告がありました。「大変な状況であったが、職員との日常的な信頼関係があったから乗り切ることができた」という館長の言葉が印象的でした。その後、「災害時の備えについて考える」というテーマでグループ協議を行い、災害対応の経験や施設状況などの視点で活発な情報交換がなされました。

【 午後の部 — 演習「避難所運営ゲーム（HUG・ハグ）体験」 】

日本防災士会秋田県支部の渡辺勝治支部長を講師に、静岡県で開発された避難所運営を疑似体験するツールであるHUGを体験しました。このHUGは実際の避難所設置時の訓練としての有効性が評価され、現在、全国的に広がっているものです。グループに分かれた参加者は、避難所に見立てた図面の上に、避難者の情報が書かれたカードを見て、どの位置にどの避難者を配置するのか、本部はどこに、受付はどこに…というように判断する作業を通じて、避難所運営を疑似体験しました。最後に、各グループで疑問に思った点や迷った点を他のグループに質問し合うことで、認識を深め合うことができ、有意義な研修となりました。

参加者の声（抜粋）

- ・行政職員として、また公民館職員として、どんなことができるか深く考えさせられました。
- ・その場その場で適切な判断ができるよう、常に想定して備えておくことが大切だと学びました。



「避難所運営ゲーム（HUG・ハグ）」にグループで真剣に取り組んでいる参加者

生涯学習・社会教育関係者研修 実施レポート③

○8月2日（金）「地域活性化研修①」



参加者で一杯の前山森林交流センター

羽州街道の要衝として栄え、貴重な郷土芸能が伝わる北秋田市前山地域に、全県から40人を超える社会教育委員や生涯学習奨励員が集まりました。前段では、一度途絶えた踊りを復活させるために、後継者や財源の確保に奔走され、見事に成し遂げられた前山郷土芸能保存会会長の小笠原忠夫氏の講話を聞きました。当事者ならではの興味深い内容に、参加者はその話に引き込まれていました。当初は引き続き前山集落の散策を予定していましたが、暑さのため中止。グループ協議を延長して行うことにし、「郷土芸能を維持していくために必要な要件は何か」というテーマで、7グループに分かれて白熱した議論が展開されました。地域、学校、家庭の理解と協力が不可欠で、そのつなぎ役が生涯学習・社会教育関係職員の役割として期待されているという共通の認識が導き出され、実り多い研修となりました。

トピックス

「北海道・北東北4道県生涯学習センター等研修交流会」が初開催されました！

去る7月26日と27日の2日間、青森県総合社会教育センターを会場に初めて開催されたのが、この研修交流会です。これまで、全国レベルの研修交流の機会はあったものの、隣接する四つの道県（北海道・青森県・岩手県・秋田県）生涯学習センター等の職員が一堂に会して、共通の課題で協議を行うのは今回が初めてでした。研修交流で、各県が抱える課題には違いはあるものの、この後共通実践することについては一定の方向性を見出すことができました。来年度は、当センターが事務局を担当し、本県で実施することを確認し、有意義な初の研修会は無事に幕を閉じました。

※次号は10月末の発行を予定しています。